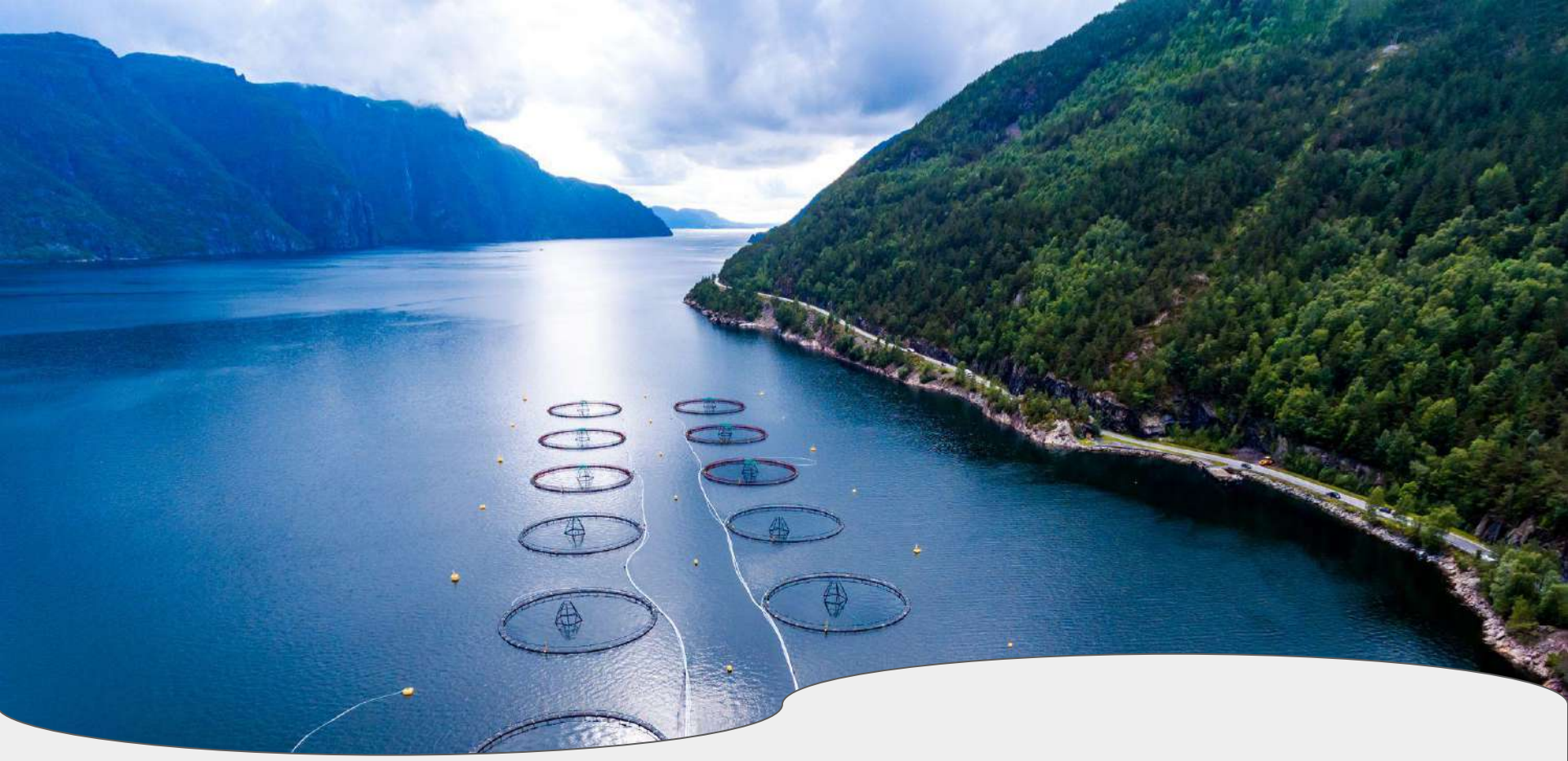


世界水産物連盟ニュースレター
2022年12月

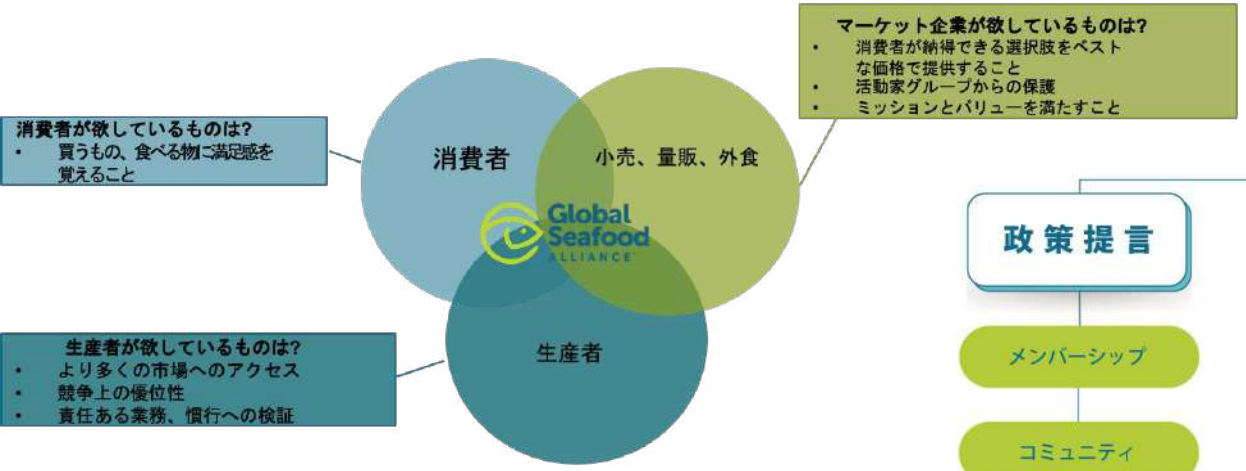
Global Seafood ALLIANCE™

2023年の活動に向けて

2021年4月にはGSAへと組織統合を行い、保証の対象が養殖に加えて天然にも拡大しました。
2022年は6社が新たにBAP認証エンドーサーに加わり、日本の BAP認証エンドーサー数が32となりました。

弊団体の活動範囲は水産物における、保証、教育、政策提言となります。
保証: BAP認証(養殖)とBSP認証(天然)
教育: GOALを代表とする水産物に関しての国際会議、 Advocate(インハウスメディア)、Aquademia(ポッドキャスト)
政策提言: メンバーシップ(企業)、コミュニティ(個人)

2023年は以下の活動を予定しております。
既存の32BAP認証エンドーサー企業をBAP・BSP認証両方のエンドーサーへと移行。エンドーサー数向上。
日本語版のWebページや資料強化による、教育分野の活性化、消費者の認知度向上。
日本でのメンバーシップ企業拡大により、政策提言機能の強化。



海彩給食 埼玉県ときがわ町小中学校のアンケート結果

2022年7月15日に埼玉県ときがわ町の小中学校全5校、700名を対象に開催された海彩給食のアンケート結果をご紹介致します。
※アンケート回答は500名ほど。
海彩給食についてはこちらをご確認ください。

BAP認証やその他の認証マークのついた商品を買いたいと思いましたか？

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない		
128	200	78	97		503
25.4%	39.8%	15.5%	19.3%		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が回答数の65.2%であり、特別授業やチラシ配布により、BAP認証等への認識がときがわ町の小中学生に広まったものと考える。今後も機会をとらえBAP認証等について周知していきたい。

「海彩給食」を通して、海の食べ物が好きになった、もっと食べてみたいと感じましたか？

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない		
226	171	51	58		506
44.7%	33.8%	10.1%	11.5%		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が回答数の78.5%であり、「海彩給食」を実施することによってときがわ町の小中学生が海の食べ物に興味を持ち、その美味しさに触れることで「魚嫌い」を克服できる良い機会になっていると考える。今後も日本財団法人海と日本プロジェクトと協力し継続していきたい。

その他意見・感想などありましたら書いてください

「とてもおいしかった」「また食べたい」との感想が多くあった。「魚が苦手」との感想もあったが「魚が苦手なので海彩給食で好きになりたい」「魚が苦手だが食べていきたい」といった感想も見られ、「海彩給食」が魚嫌い克服のために意味のある特別給食であると感じた。特別授業を受けた児童からは「海彩給食を通して海のことがいっぱい分かったし、給食がとても美味しかった」との感想もあり、環境問題を含め海や魚の事を知るための良い機会になったと思う。

弊団体としても、責任ある水産物で世界の栄養需要を満たすというビジョンのもと、魚食の普及に貢献してまいります。

中国市場の状況

中国市場でもDingdong Maicai(生鮮EC)、Hema(OMOスーパー)、Qiandama(食料雑貨店)などエンドーサー数が30を超えて、拡大傾向にあります。
イベントでの登壇や、エンドーサーの取り組みを表彰する BAPロゴキャンペーン、来年の干支にちなんだ卯年のカレンダー作成など積極的に活動を行なっております。

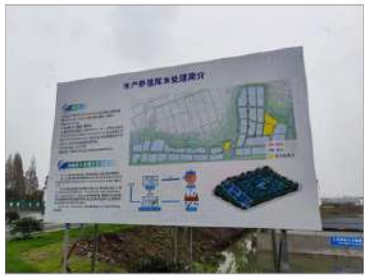
China Salmon Summit

BAP logo campaign

BAP New Year Calendar

China Seafood Summit

Farm visiting & Following up



全国鰹鮪近代化促進協議会様にてBSP認証のご紹介

12月9日、全国鰹鮪近代化促進協議会様にてBSP認証、特に責任ある漁船基準(RFVS)についての講演の機会を頂きました。
当日は通常総会の間に、講演、質問・意見交換会を含めた2時間半のお時間を頂きました。

質問・意見交換会では以下のような内容がございました。
-責任ある漁船基準内での最低賃金の捉え方
-責任ある漁船基準内での賃金の振り込み方法について
-ILO C188、STCW-F、流通適正化法との関連
-今後GSAとしては、マーケットに対してどのようにBSP認証認知度向上の取り組みを行なっていくのか

今後、輸出を促進して行く際には日本漁船への責任ある漁船基準の適用の必要性も感じる一方で、日本のマーケットがサプラチェーンに対して、海外漁船に対して責任ある漁船基準を求め、日本の購買力を通じて海外漁船の慣行をより良いものにしていくことが非常に重要だと感じました。
今後は、流通適正化法の人権部分の強化や、ILO C188、STCW-Fと国内法の乖離も探っていきたいと考えております。

国内BAPエンドーサー企業一覧

MARUHA NICHIRO
海といのちの未来をつくる

MITSUI & CO.

三菱商事

TOREI

Shokuryu
株式会社ショクリュー

Rakuten

CO-OP
日本生活協同組合連合会

国分グループ
KOKUBU

東華商事株式会社
TOUKA SHOUJI CO.,LTD.
TOUKA

COMPASS GROUP

Camanchaca

LEOC

ROYAL
ハイウェイロイヤル株式会社

SI
石光商事株式会社

Sanyo Foods
三耀フーズ株式会社

EM研究機構

EM WELLNESS
暮らしの発酵
LIFESTYLE RESORT

UMITO Partners

Jalux

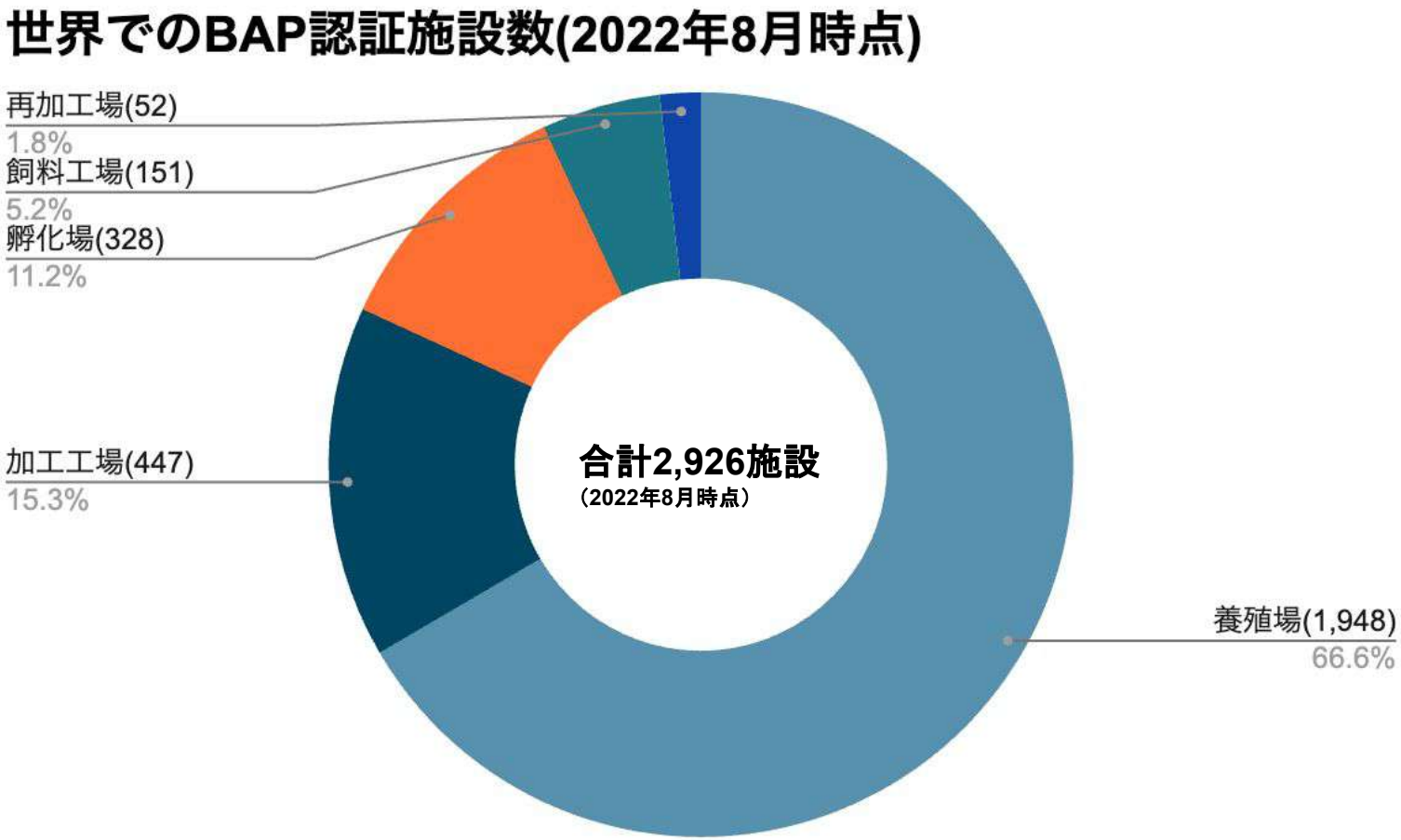
OBAYASHI
大林組

AUDACE

Sincère
BLUE

※全32社のうち、23社を掲載

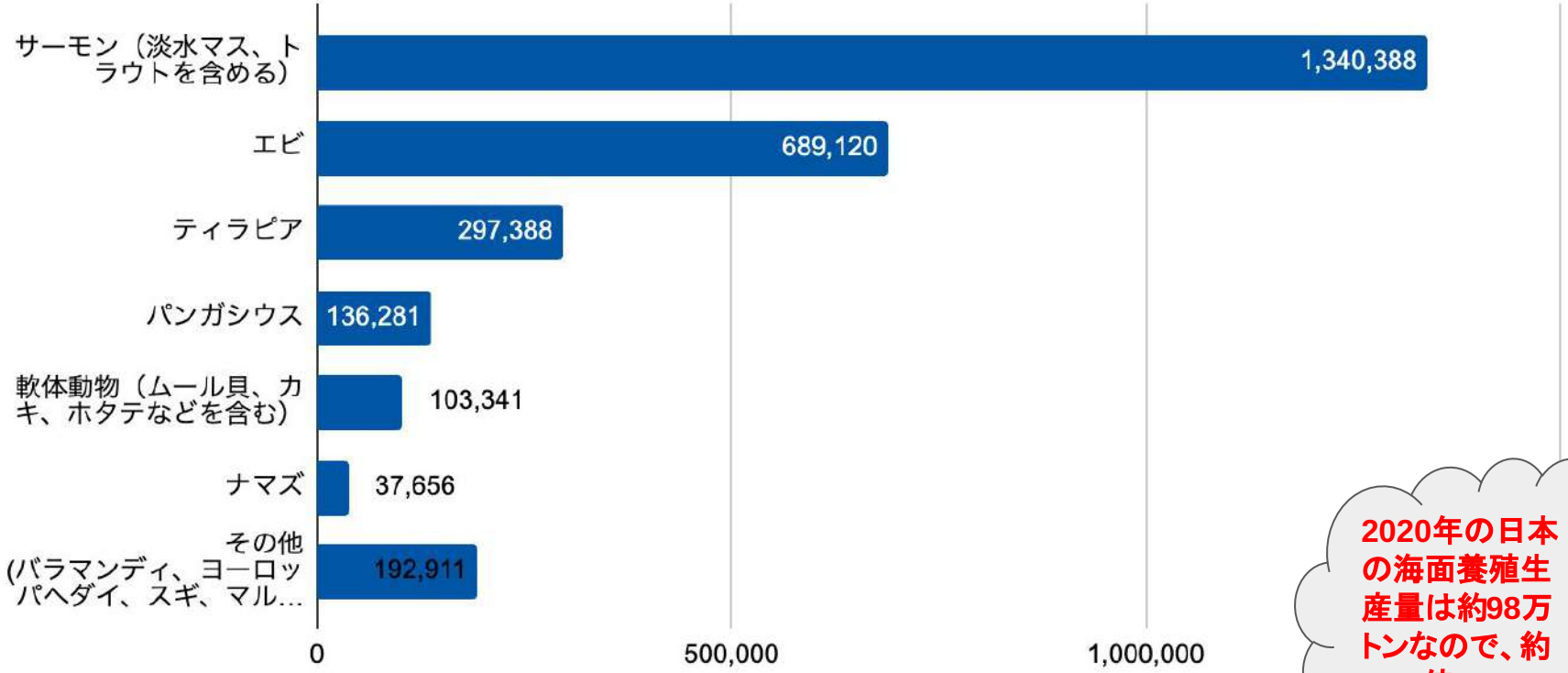
世界でのBAP認証施設数



2022年8月時点のBAP認証施設数は2,926件です。
※こちらの数字は各施設の直近の監査結果より集約されております。
現時点での日本での取得施設は無し。

魚種別のBAP認証生産量

2022年8月時点　（単位：トン）



2020年の日本の海面養殖生産量は約98万トンなので、約2.85倍！

2022年8月時点、BAP認証水産物の世界合計は279万7085トンです。
36カ国で29魚種を認証済み。
※こちらはBAP認証を取得している全養殖場の直近の監査結果からの数字です。

BAP認証フェアの企画大募集中です！

BAP認証を運営するGSAではマーケティングサポートも積極的に行っております。
共同でのイベントをご希望の方は日本マーケット担当芝井までご連絡下さいませ。
それぞれのイベントのご要望に合わせて打ち合わせをさせて頂き、必要に応じてポスター、ポップ、
その他ビデオ、ステッカー等々を <u>無料にてデザイン、納品</u> 致します。
※必要枚数の印刷に関しては各企業様でご負担を頂けます様お願い致します。

マーケティングサポート用にご用意ができる資料は以下をご参照下さいませ。
https://drive.google.com/file/d/1COWGrAKVCVoEIdZzmsOcSlXJZHcQ5-5h/view?usp=sharing

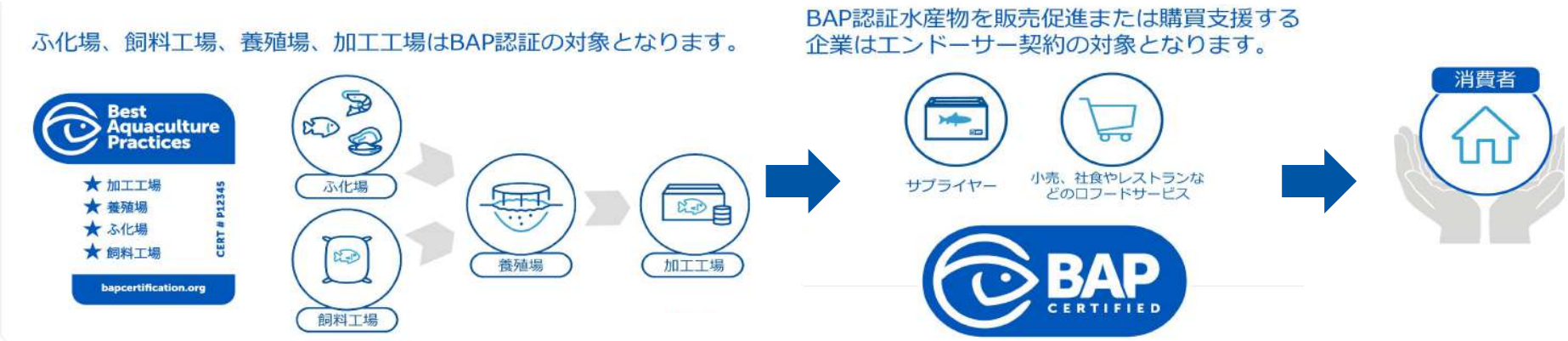
マーケットとして導入しやすいBAP認証

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象になり、年に一度の監査が必要になります。
商品の加工が発生しないサプライヤー、小売、社員食堂やレストランなどのフードサービスはエンドーサー合意書の締結のみで、無料でBAPロゴの使用やリリース、レポート等での発信が可能になります。

特例1: 個別包装された商品を開封、再梱包またはラベルの張り替えをせず、商品の梱包やラベルをそのままの状態でピッキング流通する場合について。その施設は加工工場認証の取得対象外になり、エンドーサー合意書の締結のみ必要となりBAPロゴ付き商品として、そのまま販売して頂けます。

特例2: 最終消費現場での商品の加工、調理、再包装、またラベル張り替えをする場合は加工工場認証の対象外となり、エンドーサー合意書の締結のみでロゴを使用いただけます。（スーパーのバックヤード加工、飲食店・レストラン・ホテルの調理場加工など。）

また、複数の水産物を使用した製品に関して、使用された一部の水産物がBAP認証であればロゴマークを使用することができます。可能な限りどの水産物がBAP認証なのかを明記してください。
詳しくはこちらよりBAP認証ロゴガイドラインをご参照ください。



BAP認証の日本語版の各種資料について

BAP認証に関する日本語の三つ折りパンフレットや、各種資料を以下のリンク先より無料ダウンロードすることができます。是非ご活用下さいませ。

https://info.globalseafood.org/ja-jp/bap

GSAとBAP認証のご案内

養殖漁業ファクトシート

BAP認証ロゴマーク使用ガイドライン

2020年次レポート

BAP認証の日本語ロゴについて

BAP認証の日本語版ロゴを用意しております。
利用をご希望の方は芝井までお問い合わせください。
kota.shibai@globalseafood.org

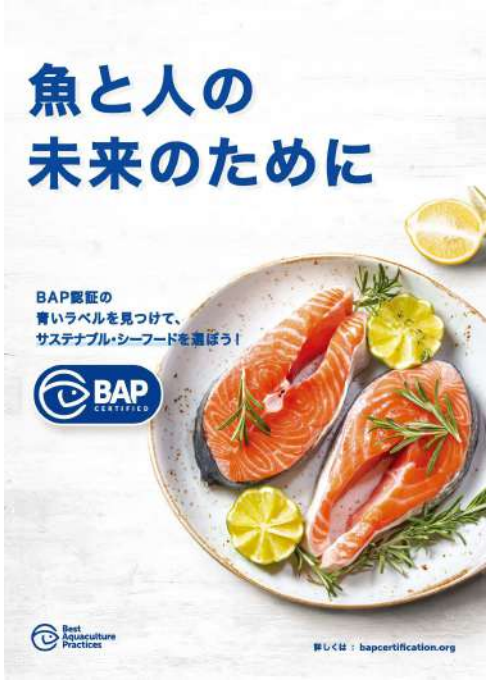
魚と人の
未来のために

責任ある
養殖水産物の
国際基準

国際基準を満たした環境で
養殖されています

海と魚を守る安心の
BAPマーク

きれいな海で獲れた健康な
魚介類の証



ニュースレターに関するお問い合わせは以下までお願い致します。
※二次利用をご希望の方はお問い合わせ下さいませ。

世界水産物連盟 日本マーケット担当
芝井 幸太

メールアドレス：
kota.shibai@globalseafood.org

電話番号:
080-2167-0086

BAP認証ウェブサイト
https://japan.bapcertification.org/

※配信停止をご希望の方は、こちらまで「配信停止」とご連絡くださいませ。